

看護師企画によるシンポジウム

生活習慣を支えるがん看護

茨城県立中央病院看護局長 角田 直枝（企画者代表）

がん患者の療養生活支援には、診断されたときからの緩和ケアが推進されているように、患者の QOL の維持向上の視点が欠かせない。しかし、治療に伴う入院・通院や化学療法の副作用などで、患者にとって意味のある生活習慣に影響が及ぶことも少くない。そこで、生活習慣をなるべく維持しつつ、療養生活が送れるような看護実践を取り上げる。化学療法センター・緩和ケア病棟・在宅と、それぞれの場での取り組みから、QOL 向上のために、患者の生活習慣を支えるための看護について検討する。そして、治療や療養の場が変わっても、看護が支え続けられるよう連携の推進について検討したい。

シンポジスト

菊池 早輝子	株式会社日立製作所日立総合病院 がん化学療法看護認定看護師
松下 久美子	友愛記念病院 緩和ケア認定看護師
横井 由美子	JA とりで総合医療センター訪問看護ステーションとりで 訪問看護認定看護師

座長

久野 美雪	東京医科大学茨城医療センター 緩和ケア認定看護師
鯉沼 とも子	茨城県立中央病院 がん性疼痛看護認定看護師